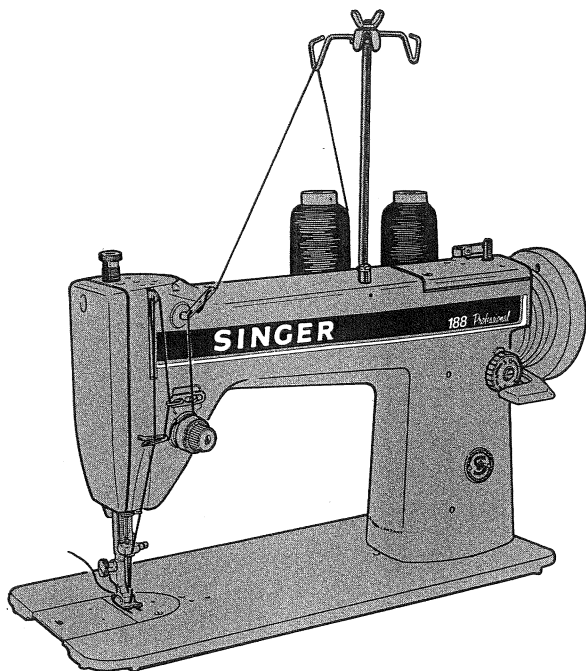


SINGER  
SEWING  
MACHINE  
MODEL **188**

*Professional*

## 目 次

新しいシンガー 188U型ミシンの紹介	1
給油	2
針	4
糸	4
針の取りつけ方	5
上糸の通し方	6
ボビンケースの取り出し方	7
ボビンの巻き方	8
ボビンケースの糸の通し方	10
ボビンケースの入れ方	10
縫い始めの用意	11
縫い始めるには	11
縫い終わって布地をはずすには	11
糸調子	12
上糸の調子	12
下糸の調子	12
糸取りばねの調整	13
上糸案内の調節	13
押えの圧力の調節	14
縫い目長さの調節	14
二本糸立台(組)の取りつけ方	15
糸巻きキャップの使い方	16
糸巻きネットの使い方	17
じょうずに縫うためのヒント	17



## 新しいシンガー188U型ミシンの紹介

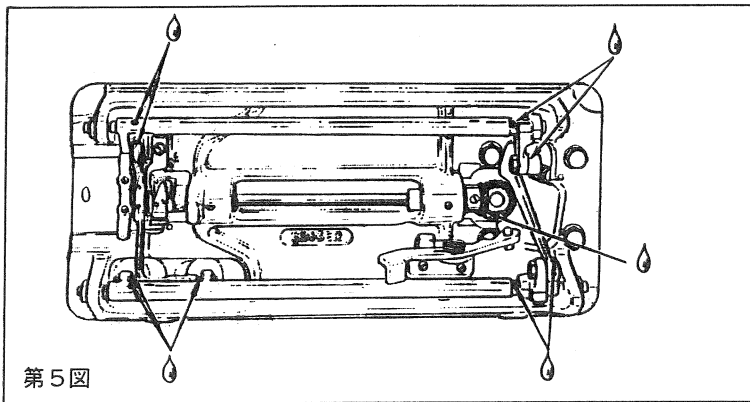
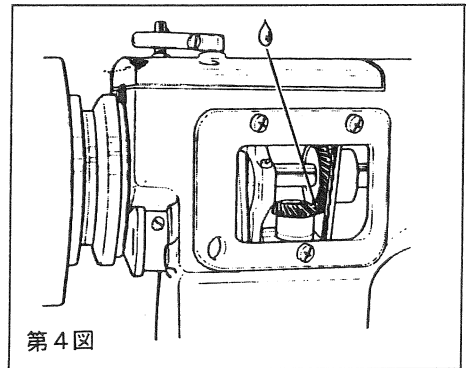
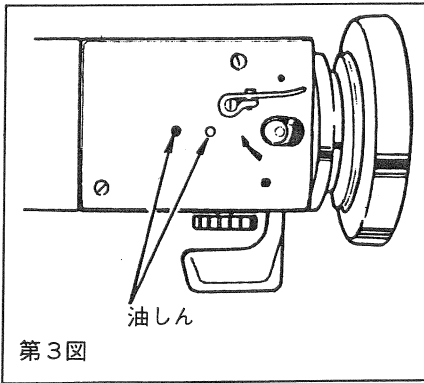
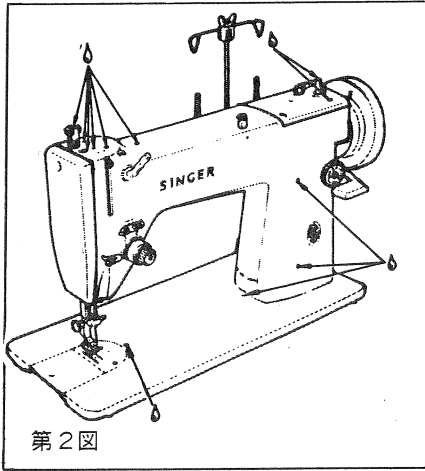
シンガー 188U型ミシンは性能の良い、安心してお使いになれるミシンです。その用途はきわめて広く、薄いモスリンからデニムやカーキ服地のような厚地のもまで縫うことができる“直線一本針本縫い”ミシンです。

188U型ミシンは足踏みでも、電動でも使えるようにできておりますから、お望みの速度で操作することができ、その使いやすさはきっとあなたのお気に召すことでしょう。

## 給油

最良の効果を得るためにはシンガーCタイプミシン油(足踏用)またはBタイプミシン油(電動用)をご使用ください。

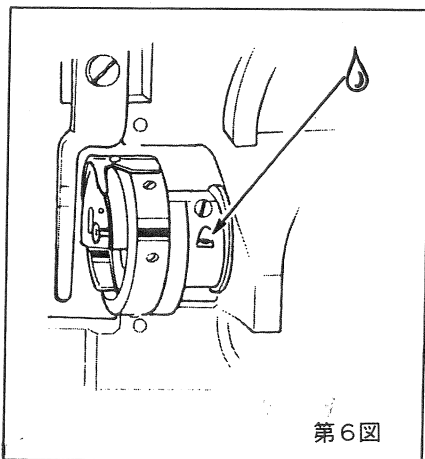
ミシンを運転する前に、第2～6図に示されている個所に油を1～2滴さしてください。油しん(第3図)はいつも油をしみ込ませておいてください。ミシンを続けてご使用になるときは必ず給油してください。とくに最高速度でお使いになるときは、たびたび給油することが大切です。



ミシンを向こう側へ倒して、外がまの油穴が手前にくるまではずみ車を手前へ回し、第6図に示されている個所へ油を1～2滴さしてください。

長い間使用されなかったミシンをお使いになるときは—

- 面板を取りはずして、針棒と天びんのしゅう動部に給油してください。
- アーム裏側の窓（第3図）から送り調節装置に給油してください。
- アーム裏側の窓（第4図）から、上軸ギア部及び送り調節装置に注油してください。
- ミシンを向こう側へ倒し、ギアカバーを取りはずして（第5図）下軸ギア部に注油してください。
- 第2～6図のように、ミシンに給油してください。



**注意：**油をさした後は、余分の油を除くため、はしぎれで少し縫ってください。

## 針

お使いになる針は、縫い目の良否に直接影響します。正しいサイズの針を使うことは、ミシンの機能を十二分に発揮するのにきわめて大切なことです。それゆえ、最良の縫い上がりを得るためには、下記の表に示されているシンガー針を必ずお使いください。

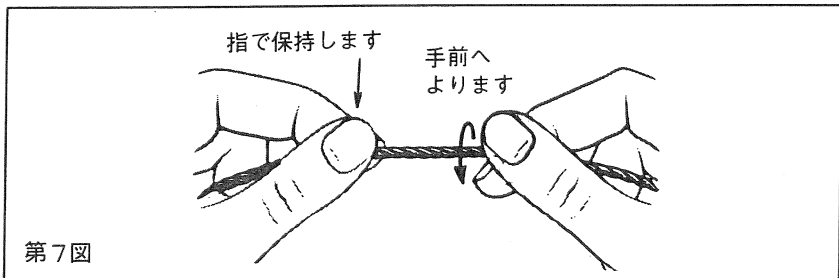
針	
カタログ番号	サイズ
1515-01 (16×95)	8, 10, 14, 16, 18および22

針のサイズは使用する糸の太さおよび生地の種類によって異なりますので、これらに合った針を選んでください。正しいサイズの針をお使いになれば、糸は自由に針の目を通り、裁縫中に切れたりするようなことはありません。

曲がった針は目飛びの原因となります。また、針先がつぶれていたり、まくれていると目飛びや布地をいためる原因となります。

## 糸

188U型ミシンの上糸には、**左よりの**糸だけをお使いください。下糸には左より、右よりのどちらの糸を使用してもかまいません。糸のよりの方向を調べるには、下図に示すように糸を手を持ち、右手の親指と人さし指で手前へよります。このとき糸のよりが固くなれば、その糸は左よりです。反対によりがもどれば、その糸は右よりです。



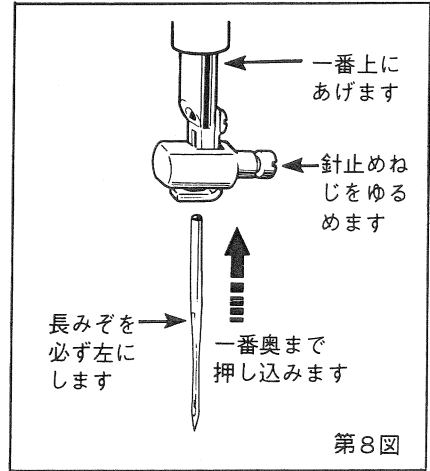
## 針の取りつけ方

はずみ車を手前へ回して、針棒を一番上まであげます。

針止めねじを、第8図に示されているようにゆるめます。

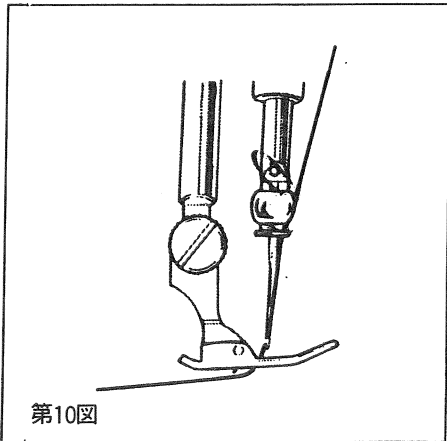
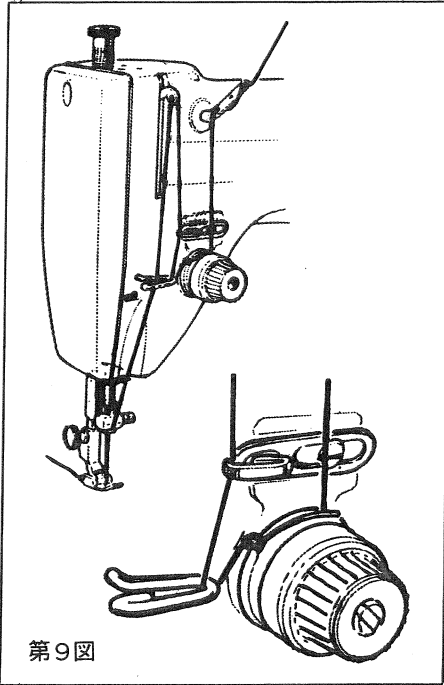
次に、第8図に示されているように、針の長みぞを正しく左に向けて針止め穴の一番奥まで押し込みます。針の長みぞの向きが正しくないと、糸切れや目飛びが起りやすくなりますからご注意ください。

針止めねじをかたく締めます。



## 上糸の通し方

はずみ車を手前へ回して針棒を一番上まであげます。次に、糸立ての糸巻きより引き出された糸を第9図および10図に示されている順序に従って通します。針の糸穴には左から右へ通して約5cmほど引き出しておきます。



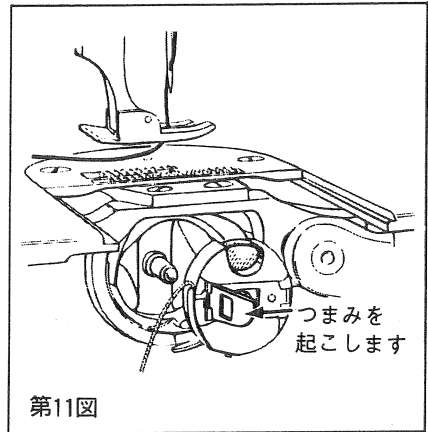


## ボビンケースの取り出し方

はずみ車を手前へ回して天びんを一番上にあげます。

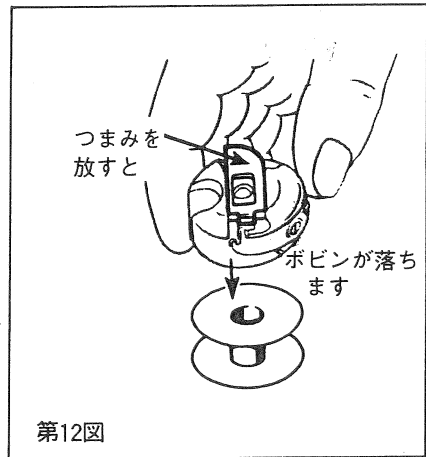
ミシンを向こう側へ倒してベッドの下に左手を入れ、第11図に示されているようにボビンケースのつまみを起こしてかまからボビンケースを取り出します。

**注：**つまみ（第11図）をいっぱい起こしている間はボビンはボビンケースから落ちないようにになっています。



ボビンをボビンケースから取り出すには、つまみを放し、ボビンケースの開いた口を下に向けます。

ボビンは第12図に示されているように落ちます。

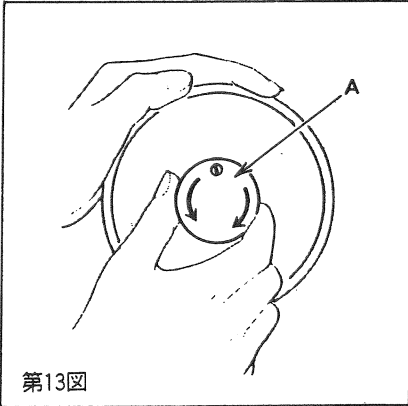


## ボビンの巻き方

はずみ車を左手で押え、ストップモーションねじAを手前へ回してゆるめ、はずみ車だけが回るようにします。

ボビンを糸巻き軸Bの一番奥まで押し込みます。ボビンのみぞに糸巻き軸の回り止めが入るように押し込みます。

糸巻きから引き出された糸を糸案内Cにかけ、次に調子皿Dの間に糸を通してボビンに数回巻きつけます。



第13図

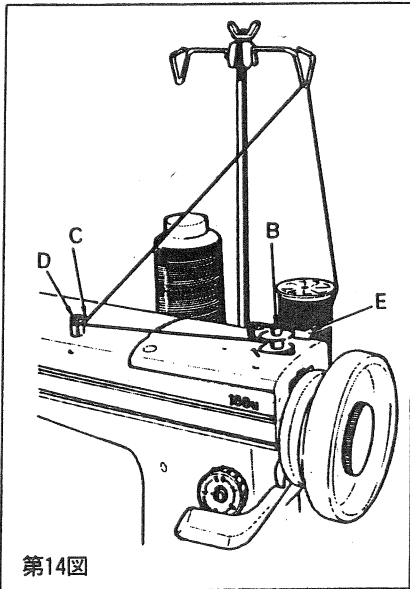
ボビン押えEを手前の方へ引いてからミシンを運転します。

ボビンに糸を巻いているとき糸を導いたり押えたりしないでください。

ボビンに糸を巻き終わると、ボビン押えEが自動的にはなれ、ボビンの回転は止まります。

ボビンを糸巻き軸からはずし、ストップモーションねじAを締めます。

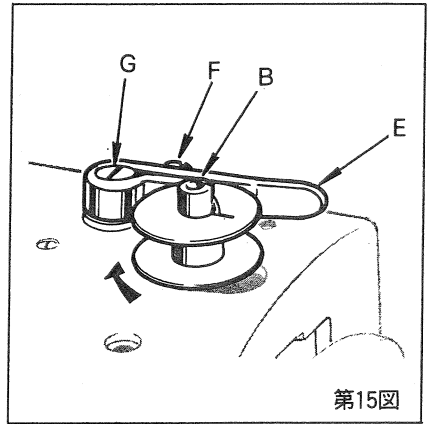
裁縫中でもボビンに糸を巻くことができます。この場合ストップモーションねじAを締めたままで上記の手順にならってください。



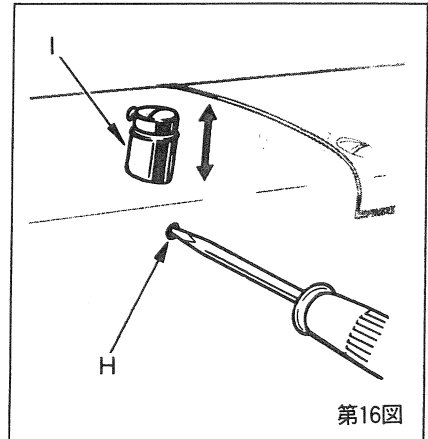
第14図

ボビンの糸巻き量を調節するには、ボビン押えEのねじFをゆるめ、軸Gが回らないようにねじ回しで押えながらボビン押えを手前または向こう側へ回します。

- ボビンに糸をより多く巻きたいときにはボビン押えを向こう側へ回し、少なく巻きたいときには手前に回します。
- ねじFをもとのとおりしっかり締めます。

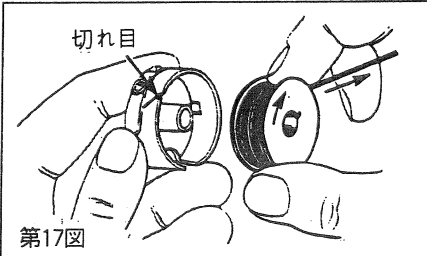


ボビンに糸が平らに巻けないときは、ねじHをゆるめ、糸案内台Iを上または下に動かして調節します。ねじHをもとのとおりしっかり締めます。

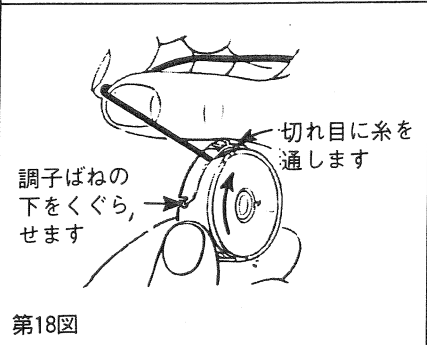


## ボビンケースの糸の通し方

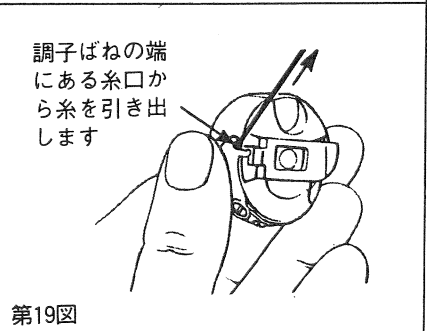
ボビンに巻いてある糸を約5cmほど引き出しておき、第17図に示されているようにボビンを持ってボビンケースに入れます。



引き出しておいた糸をボビンケースの切れ目に通し、調子ばねの下をくぐらせます。(第18図)

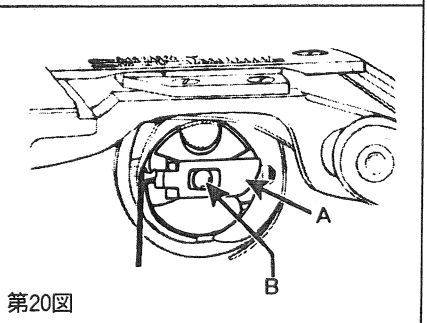


次に第19図に示されているように糸を調子ばねの端にある糸口から引き出します。



## ボビンケースの入れ方

糸通しがすみましたら、左手でボビンケースのつまみA(第20図)をいっばいに起こして持ち、かまの軸Bにボビンケースをはめ、しっかり奥まで入れてからつまみを放します。糸は約5cmほど引き出しておいてください。

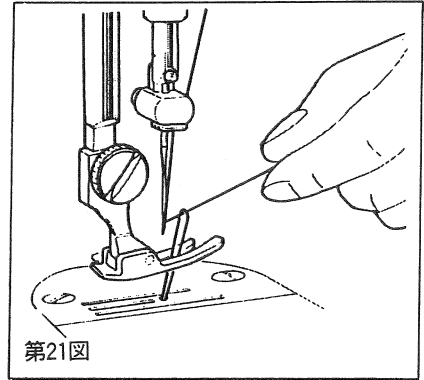


## 縫い始めの用意

上糸の端を左手で軽く持ち、はずみ車をゆっくり手前へ回し、針を一度下におろしてから天びんを一番上まであげます。

上糸を引くと、第21図に示されているように下糸の輪が針板の穴から出てきます。

両方の糸を押えの下から向こう側へ出しておきます。



## 縫い始めるには

天びんを一番上にあげ、布地を押えの下におきます。

はずみ車を手前へ回して針を布地の縫い始めの箇所にさし、押えをおろして縫い始めます。

## 縫い終わって布地をはずすには

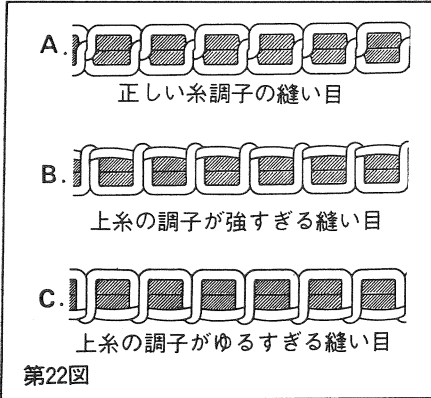
天びんが一番上にきたところでミシンを止めます。

押えをあげて、布地を押えの向こう側へ引き出し、糸を布地の近くで切ります。

## 糸調子

上糸と下糸の糸調子のバランスがよくとれていると、第22-A図に示されているように、上糸と下糸が布地の厚味の中心で結ばれます。

上糸と下糸の糸調子のバランスがよくとれていない場合は、第22-Bおよび22-C図のような縫い目ができます。

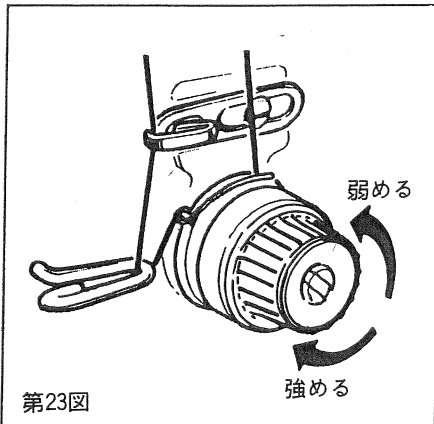


## 上糸の調子

上糸の調子は布地に正しい縫い目を作るのにちょうど良い強さでなければなりません。

押えをおろし、糸調子皿の前にあるつまみを第23図のように、左または右に回して調節します。

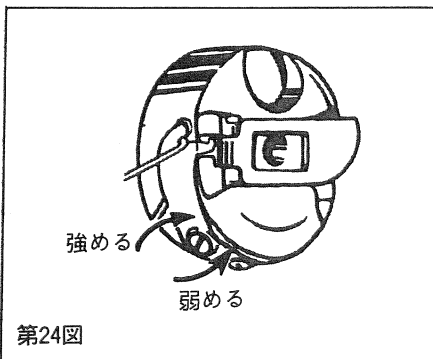
注：上糸の調子は必ず押えをおろしてから調節してください。



## 下糸の調子

下糸の調子は、一度正しく調節しますと、あとは上糸の調子を変えるだけで調子がとれます。普通の裁縫には下糸の調子はごく弱くしておきます。

下糸の調子を調節するには、ボビンケースをかまから取り出し、第24図に示されているように調子ばねのねじを回して行ないます。



## 糸取りばねの調整

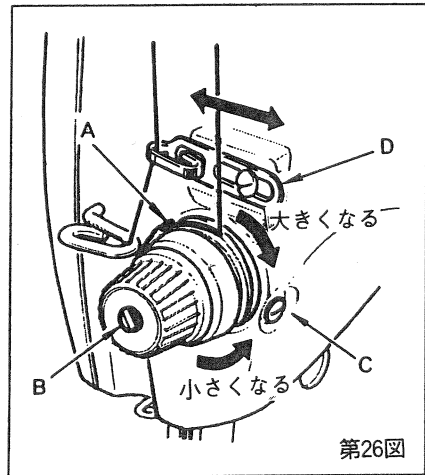
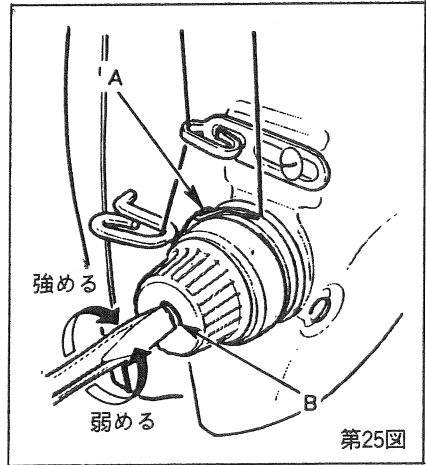
糸取りばね A の強さおよび運動範囲は、使用する糸あるいは布地のいかににより異なったセッティングが必要とされるかも知れません。より太い糸あるいは厚い布地などの場合には糸取りばねの強さをより強くします。ごく薄い布地の場合は糸取りばねの強さを弱くしてその運動範囲をより大きくします。

糸取りばねの強さの調整は、大きなねじ回しを第25図のように糸調子棒 B のみぞに入れて糸調子棒を左または右に回して行ないます。

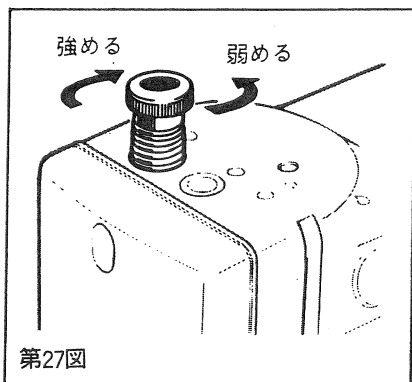
糸取りばねの運動範囲は、第26図で示すねじ C をゆるめ、糸調子（組）全体を左または右に回して行ないます。

## 上糸案内の調節

布地の厚さあるいは縫い目の長さに応じてより良い糸締りを得るには、上糸案内 D を左または右に動かす必要があるかも知れません。厚い布地または大きい縫い目の場合は右に、薄い布地または小さい縫い目の場合には左に動かします。



## 押えの圧力の調節

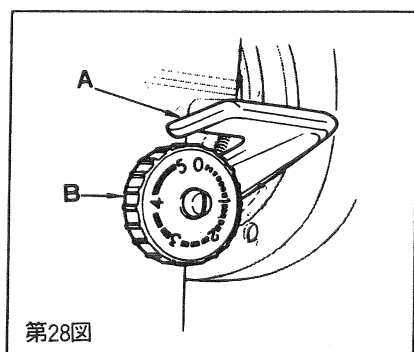


布地にかかる押えの圧力は、第27図に示してある調節ねじによって加減することができます。

- 圧力を強めるには、調節ねじを右へ回します。
- 圧力を弱めるには、調節ねじを左へ回します。

布地にかかる圧力はできるだけ弱くしますが、布地を送るのに十分な強さでなければなりません。

## 縫い目長さの調節



縫い目の長さを調節するには、送り調節レバーAを少し押し下げて、ダイヤルBを回します。(第28図)

- 縫い目を小さくするには、ダイヤルBを右へ回します。
- 縫い目を大きくするには、ダイヤルBを左へ回します。

ミシンは最大5mmまで、縫い目の長さが調節できます。

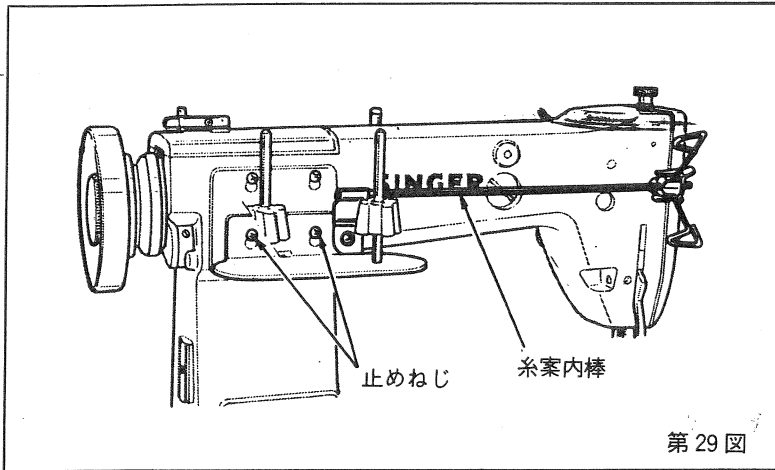
返し縫いをするために送りの方向を変えるときは、送り調節レバーAを返し縫いが終わるまで制限いっぱい押し下げたまま縫います。

**注：**ダイヤルの目盛りの数字は、実際の縫い目の長さを示すものではなく、単なる目安にすぎません。

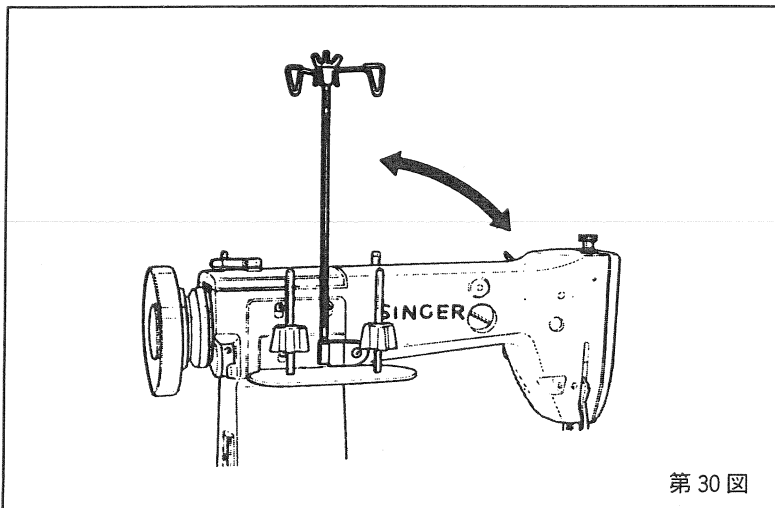


## 二本糸立台（組）の取り付け方

糸案内棒を横に倒し、付属の止めねじ（2ヶ）でアーム側板にしっかりと取りつけます。

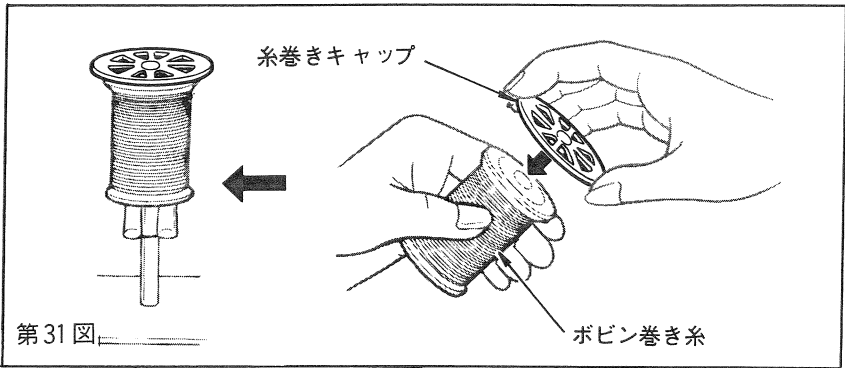


二本糸立台の糸案内棒は、折りたたみ式ですから、ミシンを使用するときは垂直に立ててご使用ください

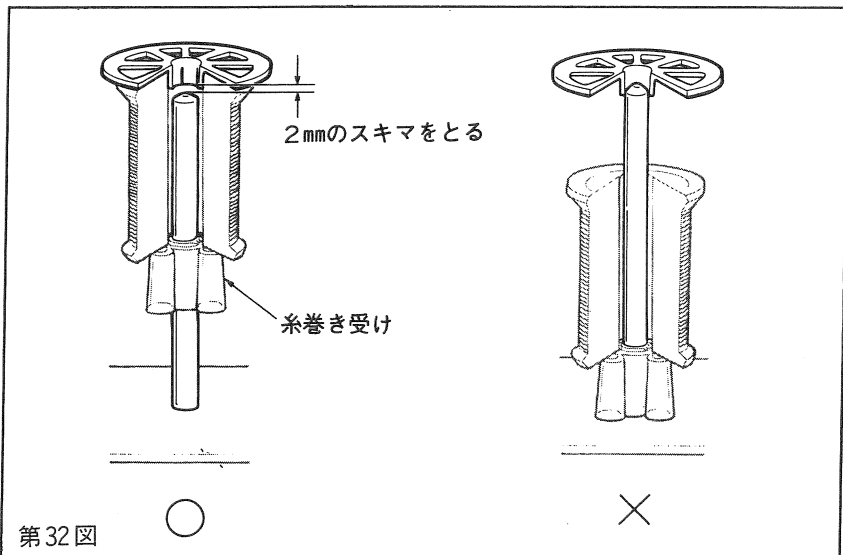


## 糸巻きキャップの使い方

付属の糸巻きキャップは、ボビン巻き糸(木駒糸)を使用する場合、ボビン(木駒)の穴に差し込んでご使用ください。

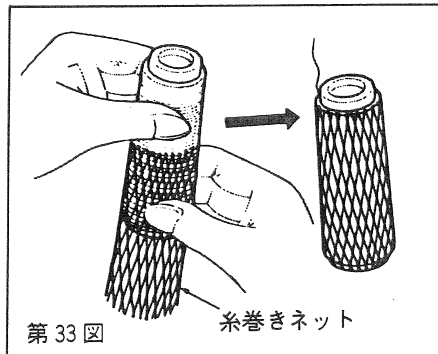


注意：糸立棒に取りつけてあります糸巻き受けは、あらかじめ適当な高さにセットしてありますが、もしその位置を移動してしまったときには、糸立棒の先端と糸巻きキャップの差し込み部とに2mm位のスキマができる様に、糸巻き受けの高さを調節してご使用ください。糸巻きキャップを糸立棒にはめ込むことは、絶対にさけてください。



## 糸巻きネットの使い方

化繊糸などのほつれやすい糸は、付属の糸巻きネットを下からセットしてご使用ください。



## じょうずに縫うためのヒント

- ミシンには定期的に油をさしてください。
- はずみ車は必ず手前へ回してお使いください。
- ミシンを運転しているときは、すべり板はいつも閉じておいてください。
- かまのまわりや、針板と送り歯の間にたまったごみを掃除してください。
- ボビンケースをかまに正しく入れてからミシンを運転してください。正しく入っていないと、ボビンケースがとび出したり、針折れの原因となります。
- ボビンをかまから出し入れする際、かまの回りにきずをつけないように注意してください。目飛びや糸切れの原因となります。
- ミシンは自動的に布を送るようになっているので、布を引っぱったりしてミシンを“助け”ないでください。布を引っぱると、針が曲がったり、折れたりします。
- ミシンが動いている間は、ひざ上げ装置を使わないでください。
- 針に糸を通してあるときは、かまに糸が食い込むおそれがありますので、縫うとき以外ミシンを運転しないでください。

お客様相談係

株式会社 シンガーハッピージャパン

電話 03-3837-1862



Form U3093(Rev.1094)  
Part No.543148-001(Rev.4)  
Printed in Japan